

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通 1階2階)

事業所番号	2792200111		
法人名	株式会社 カームネスライフ		
事業所名	グループホーム ここから中川西		
所在地	大阪市生野区中川西1-14-7		
自己評価作成日	令和元年9月13日	評価結果市町村受理日	令和元年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和元年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様が「楽しく」「笑顔のある」生活が送れるようサポートしています。 入居者様が女性のみということもあり、日常的に行えること(洗濯、掃除等)をスタッフと共に実践しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>(株)カームネスライフは、大阪を中心に23ヶ所のグループホームを「ここから〇〇」の名前で展開している。開設9年目の当事業所は、最寄駅から徒歩10分の住宅街にあり、2階建て1・2階の2ユニット18名の利用者一人ひとりが、安心して穏やかな生活が送れるよう、家庭らしい事業所を目指して運営されている。新館長の下で職員が力を合わせ、利用者の生活を第一に考えて介護に当たっており、最近では利用者の顔が明るくなってきたとの家族の感想も多い。夏でも涼しい時間帯を利用して、ほぼ全員が毎日散歩に出かけているのが特徴である。車を使っての遠足、外食や買い物、さらには事業所内の中庭を利用したバーベキューやバイキング、粉ものパーティ、職員やボランティアによるイベントも数多く、利用者を飽きさせない工夫が随所に見られる事業所である。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念を作成し掲示している。また毎朝の朝礼時に唱和し共有を図り、実践につなげている。	法人の理念4ヶ条とは別に、事業所独自の4ヶ条の理念を作成し、事業所内に掲示すると共に、毎朝礼時に職員が唱和を行い、介護の実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の夏祭り、敬老会、桜祭り等に参加させて頂いている。	自治会に加入し、自治会の誘いなどで地域の夏祭り(事業所前へのだんじり曳行や獅子舞の立寄り)を楽しみ、敬老会や小学校の桜まつりなどに招待されて参加している。	将来的には、事業所や地域施設を利用して、介護相談や認知症セミナー開催するなど、地域住民との交流を進め、理念の一つである地域との信頼関係を築くことが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の鍵預かり事業に協力している。また日々の散歩を通じ、地域に参画することで地域の方へは認知症の理解を進めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た意見、要望等は、朝礼、申し送り等でスタッフ間で共有し、実践している。	運営推進会議は2ヶ月毎に年6回(内3回は書面)開催され、地域包括支援センター職員、地域代表(事業所の賃貸者)、知見者(薬剤師)、家族、事業所館長・計画作成担当者などが出席している。毎回数名の家族の出席や動画を活用した報告などが特徴で、活発な意見・情報交換が行われている。議事録は家族にも郵送され、好評である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者がおられる為、月1回は区役所に行く機会があり、行政との連携を図っている。また事故報告書等でも区の介護保険課との連携は行っている。	区役所の生活支援担当など複数の窓口申請、報告、相談を行い、良好な関係を築いている。地域包括支援センターとは運営推進会議などで緊密な連携を図っている。区のグループホーム連絡会に出席し、情報収集などに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束、虐待防止」については、年4回研修の機会を設けている。 また、身体拘束をしないケアも実践している。	身体拘束について法人の指針が策定され、身体拘束防止委員会も設置されている。ほぼ3ヶ月毎に研修を行い、職員は身体拘束の内容と弊害について理解している。各フロアー出入口やエレベーターは安全上ロックしているが、毎日散歩したり、1階から直接中庭に出られるなど、閉塞感はほとんどない。利用者への声掛けなども丁寧に行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「身体拘束、虐待防止」については、年4回研修の機会を設けている。 また、虐待をしないケアも実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人制度を活用されている入居者様がおられる為、必然的に学ぶ機会になっている。 また制度については、内部研修で学ぶ機会も設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を実施し納得を得ている。 また随時、疑問点等にも対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時、電話、運営推進会議等で要望を把握できる機会がある。 抽出された要望等は、随時朝礼時や申し送り等で共有し運営に反映している。	家族の訪問時を、利用者の状況報告と意見や要望を聞く良い機会と捉えている。また、数名の家族が運営推進会議に出席し、意見や要望を表明している。訪問や会議出席が無い場合は、家族からの電話で要望や苦情を受けるほか、事業所から電話報告する際に意見や要望を聴取する事もある。意見、要望、苦情などは日常の介護に活かしたり、必要な対応を迅速に行うよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時、朝礼時等で把握する機会を設けている。 また、年2回スタッフ個人面談を実施している為、その場でも把握している。	月1回の職員会議や毎朝の礼時に、職員の意見に耳を傾けている。目標設定に伴う年2回の個別面談時にも意見を聞き、日常の業務に活かしている。具体的には、備品や消耗品の購入、シフトの調整、日常業務の改善などの案件が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回のスタッフ個人面談時に目標設定をしてもらい、向上心を持って業務に従事してもらっている。 また人事考課制度も導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部の研修に積極的に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内で開催の研修会に参加し、その場で交流が図れている。また外部研修でもディスカッション主体の研修で交流の機会がある。 法人研修では、他施設のスタッフと交流が図れている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前(事前相談)、契約時等に要望は確認している。 またサービス(入居)が開始されてからも要望等があれば確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前(事前相談)、契約時等に要望は確認している。 またサービス(入居)が開始されてからも要望等があれば確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	固定したサービスを提供するのではなく、本人、ご家族がその時に納得いかれるサービスを提案している。 (個人によって訪問歯科、訪問リハ等のサービスを選択されている)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物(たたみ、干し)、掃除等、入居者様・スタッフと一緒にできることは実施している。 また入居者様のティータイム時は、スタッフも一緒に飲み物を飲み「暮らしを共に」している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員側としては、職員も家族の一員であるという認識で関係性を構築するようにはしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人は、定期的に面会等に來られている。 馴染みの場所は、なかなか実施できていないが、時折「喫茶店」でコーヒーを飲む等の機会を設けている。	利用者の遠方の親せきや地域の友人などの面会があるほか、地域の馴染みの喫茶店でコーヒーを楽しむ事もある。家族が利用者を馴染みの場所や親戚との会食に誘い出す事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングの席などは、固定せずランダムに座って頂いている。 場合によっては、リビングのソファを使用し団欒を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もメール等を使用し、関係性を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が気持ちを伝えられない場合は、ご家族に代弁頂いたり、また日頃の行動や言動から察して、本人にとって安心できる生活を提供している。	独居利用者については、入居申込時に自宅を訪問し、本人や担当ケアマネジャから、本人の思いや生活歴などを確認している。入居後は職員が寄り添い、思いや意向の把握に努めて職員間で共有している。思いや希望などの把握が困難になった場合には、日頃のしぐさや表情などの観察や、職員間の情報共有を活かして介護している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族やケアマネなどから、これまでの生活歴を伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過ごし方については、ご自身のペースで無理強いすることなく生活を送って頂いている。 有する力は、過剰なケアは避け、自身で行えることは行って頂き、常に力を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開催し、本人、ご家族、医療関係者等と意見を交換し、よりベターなケアプランになるよう努力している。	入居申込の事業所見学時に、本人、家族、ケアマネジャーなどから本人の希望や生活歴の情報を得て介護計画書を作成している。入居後は職員が利用者に寄り添い、より深く想いなどの把握に努め、計画に反映している。毎月モニタリングを行い、計画書は必要に応じて随時または6ヶ月、1年後に見直している。計画書は、家族などに説明して同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	適正な記録を個別に記載している。その記録を基にケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定したサービスを提供するのではなく、本人、ご家族がその時に納得いかれるサービスを提案している。 (個人によって訪問歯科、訪問リハ等のサービスを選択されている)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩を兼ね、近隣のスーパーに買い物に行く等、一人一人の楽しみを維持できるように努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望に添った医療機関を利用している。	従来のかかりつけ医には、家族が同行して受診してもらっているが、要請があれば職員が同行する事もある。協力医療機関からは精神科や内科、歯科の往診があり、希望する利用者が受診している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があった場合は、直ぐに看護師に連絡を取り、随時対応、アドバイスしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	往診医の病院に入院病床がある為、早期退院できるような関係性は構築できている。 また他病院においても面会等を行い、退院に向けた相談等は行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時より「重度化」「看取り」の指針は、説明している。 また実際にそのフェーズになった場合にも丁寧に説明を行っている。	事業所の「重度化」「看取り」指針を作成し、対応について入居時に利用者や家族などに説明を行い、初期の段階から方針の統一を図っている。利用者の体調悪化により、医師から終末期であることを告げられた時点で、再度医師を交えて家族などに対応方針を話し合っており、24時間オンコールの体制を取っている。最近2名の看取り経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救急救命講習を受講している職員もいる。 また定期的な内部研修により緊急時の対応を職員間で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災、地震を想定した訓練を実施している。 地域との協力体制は希薄である。	年2回防災訓練を実施しており、内1回は防災のプロ「大阪消防新興協会」の立会の下で実施している。事業所で想定される災害で心配なのは、(夜間の)火災と水害である。地区の水害ハザードマップでは最大3メートルの浸水が懸念され、事業所では2階に垂直避難する事を考えている。食料、飲料水、調理器具、懐中電灯、介護用品の備蓄リストが整備され、主として2階の保管庫に備蓄している。	夜間の火災などいざという時には地域住民の協力が欠かせないと考えられ、事業所と地区の防災訓練に相互参加するなど、日頃から一層の交流が望まれる。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様には敬語(丁寧語)を基本としている。 またケア時(排泄、入浴等)も必ず声かけをしてから行動している。	利用者の人権、プライバシーについて年1回の研修を行い、職員に周知している。利用者に接する時の言葉遣いや態度については、「親しき仲にも礼儀あり」の基本的想いの下、居室の出入りや入浴時、排泄時には必ず声掛けを行うなど、配慮しながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自身で訴えられる方は希望を確認している。 訴えずに行動(動き出す)される方には「どうされたい。」のかを確認するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて生活を送って頂いている。 また、職員側が「〇〇しますね。」ではなく、「〇〇しましょうか?」と入居者様に選択肢を持って頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	適宜ヘアブラシで髪の設定は行っている。 毎朝洗顔(顔拭き)も行い、身だしなみには注意を払っている。 また入浴時は、自身で着替えを選択される方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はホームで調理し、温かい物、冷たい物と、嗜好に合わせた物を提供している。 また、入居者様にお盆拭き等の片付けを手伝って頂いている。	献立付きの食材が業者から配達され、職員がオール電化のキッチンで手作りしている。イベント時には、利用者と共に買い物に出掛けている。天気の良い日には、1階の中庭でバーベキューやバイキング、おやつ時には粉物パーティー、流しソーメン、ティータイムなど、変化を付けて楽しんでいる。利用者は後片付けなどを行っている。車で全員が回らずに出掛けたりして楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様のADLに合わせ、お粥、刻み食、ミキサー食等、食事が摂取し易い様に工夫している。 水分量も1日1,000cc以上を目標にトロミをつける等、水分量が確保できるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。 入居者様によっては、訪問歯科を利用されている方もおられる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄の支援を実施。夜間も排泄パターンを把握してトイレ誘導をしている。	排泄シートに基づいて利用者一人ひとりのパターンやサインを把握し、トイレ誘導している。日中は、自立の利用者が3名いるが、リハビリパンツやパッドで過ごす利用者がほとんどである。夜間は睡眠重視で定時巡回はせず、ポータブルトイレを利用したり、パッドを交換したりして対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を行うことで便秘予防に努めている。 また、毎日散歩(運動)も行い便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、その日の状態等で曜日を変更したりしている。 また入居者様が入浴したくないタイミングでは無理強いせず柔軟に対応している。	入浴は週3回あるが、拒否の利用者には無理強いしないで一人ひとりへの対応のコツを掴み、一旦居室で横になってもらって寝起きのタイミングで入浴してもらうなど工夫している。3方向介助の浴槽に2人介助で入浴する利用者が多く、シャワー浴や足浴などにも柔軟に対応している。職員は入浴時にいろいろと話しかけて、会話や歌を楽しんだり、入浴剤を入れたり工夫をこらしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢でもある為、個々に合わせて休息(臥床)して頂いている。 また音楽を聴くと落ち着かれる方には、音楽を流しながら休息頂いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理は薬剤師が行い、薬剤師より副作用の注意点等を指導してもらっている。 介護職として、症状の変化等の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	単調な毎日にならないよう、毎日の散歩(気分転換)やボランティア(音楽)に来て頂いたり等、生活を楽しめるよう工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩、スーパーへの買い物、毎月の外食等を行っている。 菖蒲園にも行っている。	気分転換やストレス発散の機会として、毎日の外出に力を入れ、スーパーでの朝食やおやつ、の買い物や郵便局へ出掛けたり、事業所の周りを回ったりと、利用者本位の外出を支援している。車での遠出にはおやつを持参して、季節の桜やコスモス、紅葉などが見所の公園などに出掛け、行楽気分を味わっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は持って頂いていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前は個人で携帯電話を持っている方もおり、適宜連絡を取っていた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、適宜清掃を行い、不快にならないように清潔を保っている。またリビングには行事の写真等を掲示し、季節感を味わえるように配慮している。	共用の空間は広々として、職員による清掃で清潔に保たれ、職員による手作り食事の匂いで家庭のような生活感が漂っている。中庭では季節を感じながらティータイムを楽しんでいる。季節ごとにふさわしい壁飾りやカレンダーに掛け替えられ、ソファでは足を伸ばしてリラックスして会話を楽しんでいる利用者が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席などは固定していない為、気の合う方と近くに座ることができる。またリビングのソファも使用し、気の合う方と座り空間を共有できる。希望があれば、居室に一人で過ごして頂くこともできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていたタンスをホームで使用されたり、居室にご自身の過去の写真を持参されている方もおられる。	居室にはクローゼット、防災カーテン、エアコンなどが配備され、ベッドはレンタルになっている。利用者は空気清浄機、テレビ、机など、自宅で使い馴染んだ家具や日用品を思い思いに持ち込み、居心地が良く安心して過ごせるような工夫が見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には、自身の部屋と判るように手作りの表札をかけている。またトイレも識別できるようプレートをかけている。		